

代表機関：杏林大学

課題名：
熱傷診療に係る自動診断・診療支援プログラム医療機器の研究開発

分担機関：杏林大学、慶應義塾大学、株式会社電通総研セキュアソリューション

研究期間：令和7年4月～令和8年3月

研究目的・内容

- 研究目的：
 - ✓ 熱傷（やけど）の診療において、診断の自動化と診療支援を担うプログラム医療機器（医療用アプリ）の開発を目指す
- 研究背景：
 - ✓ 熱傷診療は、受傷した面積とその深さをもとに算出する「重症度指標」に基づいて、様々な場面で医学的判断を下す
 - ✓ この重症度指標の評価手法は、未だ「目視」の推定に頼っている
 - ✓ 特に重症患者においては、受傷直後の初期対応おける人的な負担や評価の誤差が問題になる
- 研究内容：
 - ✓ これまで研究を進めてきた熱傷画像解析の要素技術を応用しながら、熱傷の診断を自動化するための画像処理アルゴリズムを開発する
 - ✓ 自動化された診断結果をもとに、急性期の熱傷診療を支援する判定アルゴリズムを開発する

取り組み

- 国内随一の熱傷診療実績を有する医療が、医用画像処理専門家や、デジタル技術革新を専門とするIT企業と連携した開発体制を構築している。

クラス分類：Ⅱ（管理医療機器）

自動診断・診療支援プログラムの開発フロー（概略）

